

京都教育大学附属高等学校 第1学年美術 I 学習指導案

指導者名〇〇〇〇(美術領域専攻)

指導担当教員名〇〇〇〇

1. 日 時： 〇〇年〇月〇日(〇曜) 第〇校時(〇〇:〇〇~〇〇:〇〇)
2. 学年・組： 第〇学年〇組 計〇名
3. 場 所： 美術教室・展示ホール
4. 題材名： 「額縁の美術館を作ろう ―空間と関わり、場を変容させるものとして―」

5. 題材の目標

○額縁本来の役割を理解するとともに、額縁のみを作品とする「額作品」が周辺の空間と関わって場の印象を変容させる効果や、空間を内側と外側に分ける作用を持つことについて理解する。

【知識及び技能】

○様々な身の周りのものを材料として扱い、その特性を活かして、自らイメージした「額作品」として、創意工夫し表現することができる

【思考力、判断力、表現力等】

○額縁の持つ特性や展示する場から得たイメージなどに基づいて豊かに発想し、主体的に表現しようとする。

【思考力、判断力、表現力等】

○鑑賞・交流の中で自他の作品良さを感じるとともに、相互の気づきを共有し、新たな視点を獲得することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

【**単元全体の目標を育成する資質・能力の三つの柱(「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」)に沿って設定する。**】

6. 題材について

① 教材観

本来、額縁には、絵画作品の展示の際に絵を美しく演出したり、作品を保護する役割がある。その起源は古く、古代ギリシアや中世初頭にまで遡ると言われる。本題材ではその本来の役割から離れ、絵画作品を入れない額縁を「額作品」として制作し、壁面に展示するものである。その矩形の物体が、空間と関わって場の印象を変容させる効果や、空間を内側と外側に分ける作用について理解することで、作品と場の関わりについて新たな視点を持ち、自らのイメージに基づいた空間をつくることをねらいとしている。また、身近にある素材を表現の材料の一つとして捉え、自らの創作活動に活かすことで、生活と芸術の関係を見直すきっかけとしたい。

鑑賞の際には、一つの大きな壁面に全員の作品を同時に展示する。このことによって他者の表現の魅力や自分との違いに気づくとともに、全体を1点の集合体としてみなして鑑賞することで、他者の作品と一体化する共同的な制作の一端に触れてもらいたい。作品は矩形のものだけでなく、コ型、L型、一型の作品なども同時に展示し、それぞれがどのように空間に作用するか、その違いについても論じる機会とする。

額縁の意味や機能の変容、そして日常的な対象を芸術的な表現の素材とする過程が、ありふれたものに新たな意味を与え、現代的な視座からの作品制作に繋がることを実感してほしい。

② 生徒観

多くの生徒が、美術に対し、高い関心と興味を持っている。また、さまざまな技法、材料などについても柔軟に対応し、積極的に表現活動を行うことができる。反面、入学してまだ間がないこともあり、他者と積極的に交流し意見を出し合うといった場面は多くはない。

本題材では、まず初めに絵画作品を入れるという役割から離れた“単なる額”が壁面に展示されることによる空間の変容をしっかりと認識し、興味を持ってもらいたい。そのため、導入時には、額縁が周辺の空間に与える影響や効果についての説明を丁寧に行い、空間との関わりを意識しながら作品の発想ができるように授業を展開する。また、鑑賞の時間では生徒同士の交流の時間をもち、互いの表現について考え方を共有できる学習活動を組み込むように工夫する。

③ 指導観

今回の題材は、空間を切り取る「額作品」の制作を通して、制作した作品が置かれた空間をどのような印象に変化させるかを構想し、自らがイメージする「額作品」を制作すること、また、そのために身の回りにある材料などを用いて、自ら表現方法を探ることを目標としている。

導入における額作品のもつ意味や定義の理解は大変重要であり、生徒達にとっては、新鮮なものの見方・考え方の提示になると思われる。実際の展示会場に行き、その場で自らのイメージを膨らませ、他者との意見の交流のなかで、互いの理解が進むよう促したい。

実際の制作では、自分のイメージを表現するための材料の使い方、その加工方法を見つけ出すことも重要となる。材料の特徴をつかみ表現の幅を広げることで、自分が作りたい額縁のイメージに近づくことが出来ると考える。装飾の材料のひとつであるペーパーナプキンは、折る、ちぎる、ひねるなどの表現方法があり、また樹脂粘土は、作品に対して厚みを増すことや、形を柔軟に変えることが出来るだけでなく、乾燥後の切削加工も可能である。これらの知識、技術を習得するだけでなく、自ら発想し実践に活用できるよう助言することが大切である。その他、パスタやビーズなどの材料を用意し、適宜使用させ、自由な表現方法を追求させたい。

【本時に関わる内容を含める。主に、主語は教師で、…させる、…指導する、…つけさせたい。…資料を活用する。机間指導を多くし、個別指導を取り入れる。グループで話し合わせ、意見を出やすくする。観察する。評価する。アドバイスを。声を掛ける等】

7. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①額縁作品が空間に印象の変化をもたらす作用について、理解している。 ②身の回りの材料の特徴を知り、それらを表現の素材として活用することができる。 【…している。…できる等】	① 展示空間や額縁から発想し、アイデアを構想する。 ②日常生活の物事を新たな意識や視点を持って捉え直すことで今日的な表現に結び付けている ③材料の特性をつかんで様々な表現方法を探り、自ら発想したイメージのために創	①額縁作品の制作に興味関心を持ち主体的に取り組もうとしている。 ②鑑賞、交流の中で相互の気づきを共有し、新たな視点を得ることができる。 【…しようとしている等】

	意工夫し制作する。 【…している。…できる等】	
--	--------------------------------	--

8. 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法等
第一 次	1	<ul style="list-style-type: none"> ●本来の額縁の役割を確認し、その機能から離れた「額作品」について知る。 ●壁面に額縁がある時と無い時の印象の違いを感じ、額作品の周辺の空間と関わって場の印象を変容させる効果や、空間を内側と外側で分ける作用について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○額縁について、興味関心を持ち、主体的に学ぼうとしているか。【ワークシート、発言】 ○額作品という課題のテーマについて理解できたか。【ワークシート、発言】
第二 次	2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ●実際に展示する場での印象をもとにアイデアを構想する。 ●材料の特性を知り、自ら発想したイメージのために創意工夫し表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○空間に作用する形、色について発想できたか。【アイデアスケッチ・エスキース】 ○材料の特性を理解し、創意工夫して制作に活用できたか。【本作品】 ○道具を適切に使用し、構想を実現することができたか。【本作品】
第三 次	4	<ul style="list-style-type: none"> ●全体での鑑賞や、交流の中で相互の気づきを共有し、新たな視点を得る。 <p>【授業における学習のねらい・学習活動について、具体的に書く】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○他の生徒の作品に関心を持ち、そのねらいなどを理解して、主体的に鑑賞活動に取り組んでいるか。【発言、ワークシート】 ○「何がわかり、何ができるようになったのか」「どんな視点を得たか」制作を通しての学びについて振り返り深めることができたか。【発言、ワークシート】 <p>【単元を通して、どの学習活動で何をどのように評価するのかを書く】</p>

9. 準備物（主な用具・材料）

教師：シナベニヤ(90×10 cm)・六割材・樹脂粘土・パスタ・ビーズ・ボタン・ペーパーナプキン・バンドソー・木工ボンド・スプレー(ゴールド・シルバー)・ブルーシート・新聞・画用紙・ダンボール

生徒：筆記用具

10. 本時の学習

①本時の目標

- ・空間を切り取り、空間の印象を変化させる額作品について、意味や面白さを理解し、自らの構想を練る。
- ・材料の特性を理解し、その素材感や色を用いて、イメージした作品の制作のためにさまざまな加工方法や表現方法を試みる。

【…に気付く、…考えることができる、…理解する、…できるなど、主語は学習者。】

②本時について

【略案の場合には必ず記述する。細案の場合は省略の場合もある。教材観、生徒観、指導観を含めた指導意図を書く。】

③本時の展開

区分	学習活動と内容【主語は学習者】 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援【主語は教師】 (教師の活動)	評価規準 評価の観点・方法
【導入】 10分	<p>1.題材の理解・授業の目標と流れの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・額縁の役割について考える。 「絵画作品の保護」 「作品と壁面の調和と演出」 ・作品がない場合の額縁の効果について考える。 —額縁がある時とない時の印象の違いを考え意見交流する— 「額縁の部分が切り取られているような感じがする」 「内側と外側に区切られる」(空間が二つになる) 「額縁で囲った部分が絵画のように見える」 ex. 顔にあてがってみると? ・テーマの提示 題材の目標と全体の流れを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に額縁を提示し観察させる。 ・生徒から出た意見をもとに、絵画を保護し、展示の際の演出効果について説明する。 ・作品を入れない額縁を提示する。 ・内側と外側を作る作用について説明する。 ・授業のテーマを提示する。 ・制作の条件、工程や方法について解説する。 「額縁の美術館を作ろう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題について、興味関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。 【発言・ワークシート】 ・額縁本来の役割を踏まえた上で、今回の額縁作品のテーマを理解することができる。 【発言・ワークシート】
【展開Ⅰ】 40分	<p>2.構想を練る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・額作品によってどのような空間を作りたいのかを考える。 ・イメージする空間を作り出すために額作品の形や大きさ、色やデザインについて構想を練り、アイデアスケッチにまとめる。 <p>3.制作Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチに基づいて画用紙で 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業工程について説明する。 アイデアスケッチ、木取り、切断、接合、装飾、切削、着色などの工程について。 ・大きさや形、幅や厚みの違いによる印象の変化について理解させる。 ・モールドイング、着色について説明する。 ・道具や材料の特徴や使い方について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作テーマを理解し、額作品によってつくりたい空間について発想することができる。 【アイデアスケッチ】 ・つくりたい空間のイメージや額縁作品の構想に基づいて、形やモールドイングなどの表現を考えることができる 【アイデアスケッチ】

	<p>エスキースを制作し、大きさや形などについて試行錯誤を重ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の材料から、エスキースに基づいて木取りし、切断、接合などの額縁の土台となる部分の制作を行う。 	<p>工具、材料、着色材料の使い方について。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アイディアスケッチを基に、材料の特徴を活かして表現することができる <p>【作品・観察】</p>
<p>【展開Ⅱ】</p> <p>40分</p>	<p>4.制作Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作Ⅰの工程で制作した額縁の土台に樹脂粘土、キッチンペーパー、パスタ、麻紐などを用いてモールドイング、装飾を行う。 		<p>適切に道具工具が使用できる</p> <p>【作品・観察】</p>
<p>【まとめ】</p> <p>10分</p>	<p>5.本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り、経験したことや感じたことを共有し、新たな視点や価値観を知る。 <p>6.次時の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の活動内容について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに本時の振り返りを記入する。 ・次時の連絡をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなものの見方や価値観に気づき、共感できているか。 <p>【発言・ワークシート】</p>

④板書計画

板書計画について記述(図示可)。

⑤資料等

配布プリント(ワークシートや参考資料)・PowerPoint資料等。
別紙資料(1)、(2)などと記述し別添とする。

⑤本時の評価

- ・空間を切り取り、空間の印象を変化させる額縁作品について、意味や面白さを理解し、自らの構想を練ることができる。
- ・材料の特性を理解し、その素材感や色を用いて、イメージした作品の制作のためにさまざまな加工方法や表現方法を試みることができる。